

自ら課題を見付け、自ら学び、自ら問題を解決する資質・能力

「学ぶ力」	
実態	成果
	<p>◇昨年度、3～6年生の算数や外国語において教科担任制を導入し、専門性の高い授業を展開したことで、児童アンケートでは9割を超える子が「主体的に学習に取り組んでいる」と回答しています。一方で、全国学力・学習状況調査の結果からは、依然として「書くこと」を苦手とする児童が多く、国語に対する必要感の低さや家庭学習の定着が課題として残っています。</p>
	<p>◇「子どもの声を聴く」ことを重点に掲げた昨年度は、自分たちの意見で学校が変わる実感をもつ子どもがもち、アンケートでは「学校生活が楽しい」という回答が91.3%（前年比+4.9%）に達しました。しかし、自主性を重んじるあまりルールが曖昧になり、一部で不安感につながったという反省もあり、「自由の中の規律」の再構築が求められています。</p>
「学ぶ力」の基盤〈協働を通して磨く 相互承認の感度〉の現状と課題	
	<p>◇友達と協力して活動することについては概ね良好ですが、自己肯定感や自己有用感については全国平均と比較すると依然として課題があります。他者のよさを認めると同時に、自分自身の成長を実感できるような、即時かつ適切な価値付けを行う関わりが必要です。</p>

「学ぶ力」の育成のために着目する資質・能力

「自ら考え、他者と協働しながら、自分に必要な学びを主体的に進める力」

変化の激しい社会において、自ら課題を見出し、多様な仲間と対話しながら最適な解を導き出すとともに、学びのプロセスを自らコントロールし、成長を実感できる資質・能力を育みます。

取組	課題探究的な学習の推進 に向けて	自治的な活動の充実 に向けて
	<p>(1) <u>単元の導入や課題探求の場面でピリカコタン見学や雪体験授業などの「本物の経験」を設定し、子どもの知的好奇心や問題意識を引き出します。</u></p> <p>(2) AAR サイクル（見通し・探究・振り返り）の視点に基づき、子どもが学習方法を自己選択・決定できる個別探究の場を充実させます。</p> <p>(3) 「家庭学習・自主学習の手引き」を活用し、一律の宿題ではなく、自分に必要な学びを自ら選ぶ「自主学習」を継続することで、学びの自律を図ります。</p>	<p>①委員会・クラブ活動の時間を木曜日に固定し、<u>子どもたちが自らの手で学校生活をより良くする活動を推進する「本物の経験」の時間を保障します。</u></p> <p>②高学年リーダーが企画・運営する「交流遠足」を通じ、異学年との温かな関わりの中で他者への思いやりを深めます。</p> <p>③あやめ野中学校区の3校でのつながりを生かし、児童生徒が相互に関わる「<u>本物の経験</u>」を通して互いの良さを実感し高めあう機会を作ります。</p>
「学ぶ力」の育成の一層の充実を図る ICT の活用について		
<p>◇Chromebook をノートや鉛筆と同じ「日常の文房具」として位置付け、課題解決のための情報収集、思考の視覚化、成果の表現に毎日活用します。</p> <p>◇心の健康観察アプリ「シャポテンログ」を毎朝活用し、子どもの心と体の変化を可視化することで、早期の支援やいじめのない学校づくりにつなげます。</p>		

<本プログラムの実行に向けて>

<p>新年度</p> <p>◇年度当初の職員会議および保護者向けの学校教育説明会において本プログラムを共有し、学校・家庭・地域の三者が同じ方向性で子どもの学びを支える体制を整えます。</p>	<p>【一人一人の教職員】</p> <p>◇教職員一人一人が自らの学びをデザインし、校内研修でのAARサイクルに基づいた公開授業や実践交流を通じて、質の高い指導体制と子どもと向き合う心のゆとりを確保します。</p>	<p>【学校全体】</p> <p>◇教職員一人一人が自らの学びをデザインします。校内研修では、AARサイクルに基づいた公開授業や実践交流を行い、質の高い指導体制を構築するとともに、子どもと向き合う心のゆとりを確保します。</p>	<p>次年度へ</p> <p>◇多角的な調査・アンケートの分析</p> <p>◇学校評価の実施と実践の共有</p> <p>◇児童アンケートを元にした「認識のズレ」と「プロセスの評価」の検証</p>
--	--	---	---